

令和7年度学校自己評価システムシート (県立越谷東高等学校)

E26

目指す学校像	志を高くチャレンジ精神に満ちた生徒を育て、きめ細かく面倒見のよい指導を実践し、地域から信頼される学校
--------	--

重点目標	1 心身ともに健康で、強い意志と体力を持った生徒を育てる。 2 学習意欲が旺盛で、目標に向かって努力する知性豊かな生徒を育てる。 3 規律と責任を重んじ、協調と奉仕の精神を持った心優しい生徒を育てる。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (1 月 3 0 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 学校生活アンケートの「予習・復習の取組」が60%を下回っている(昨年度は40%)。 【課題】 ICT機器を活用して、主体的・対話的な授業を行う。自学・自習の習慣の確立。	○ICT機器を活用した授業改善を通して、生徒の学びの意欲を向上させる。提出物の提出状況を向上させる。	①タブレット端末、ICT機器をより効果的に活用した授業の実施 ②個人情報を出さないように、他人の課題の提出状況を生徒に知らせる。	①学校生活アンケートの「予習・復習の取組」が70%以上 ②学校生活アンケートの「課題にしっかり取り組めた」が75%以上	○「予習・復習の取組」が40%、「課題にしっかり取り組めた」が94%であった。課題の提出状況は非常に良好であった。	B	課題(復習)に重点が置かれていることもあり、予習の習慣は十分でないと考えられる。自学・自習の方法を学んでもらうことで、主体的に学ぶ雰囲気を学校全体として醸成したい。
2	【現状】 ここ数年、高い目標を掲げ進路実現に取り組んでいて成果が出てきている。進路実績が更に向上する余地はある。 【課題】 高校生活3年間を見通した組織的な指導を行う。一般入試に対応出来る生徒を増やす。	○体系的かつ組織的な進路指導を通して、生徒一人ひとりの、より高い進路希望を実現させる。 ○希望者を募って放課後の講習会等を行う。	①分野別ガイダンス、講演会、二者面談等を通して継続的な進路指導を実施 ②保護者向け進路講演会や三者面談の効果的な実施 ③長期休業中に加えて平日においても講習会を実施する。	①学校生活アンケートの「高い目標に向けた進路活動」75%以上 ②学校生活アンケートの「進路情報提供(保護者)」の満足度70%以上 ③学校生活アンケートの「課外講習にしっかり向きあった」が70%以上	○「学校の進路指導は十分」が95%、「進路に関する情報提供は十分」が94%であった。保護者満足度は66%であった。 ○「課外講習にしっかり向きあった」が90%と意識の高さが表れていた。	B A	進路指導については、概ね生徒の意向に沿っていると考えるが、保護者向けの情報提供については一考の余地がある。課外講習の参加については、全校生徒数のおよそ半分が参加し、意識も高いと分かった。更に参加者を増やしたい。
3	【現状】 学校行事・部活動が活性化している。 【課題】 進んで行動する力が充分でない生徒が一定数存在する。勉強と部活動の両立が充分でない生徒が一定数存在する。	○学校行事・部活動に積極的に参加させながら、生徒の行動力・実践力を高める。 ○部員同士で学力を高め合えられるような関係性も作る。	①学校行事前に行われる説明会等にしっかりと臨めるよう、様々な場面で指導を行う。 ②本校における「部活動方針」を踏まえた部活動を実施 ③考査前の学習環境の確保	①学校生活アンケートの「学校行事に積極的に取り組んでいる」が90%以上 ②学校生活アンケートの「勉強と部活動の両立にしっかりと取り組んでいる」が70%以上	○「学校行事に積極的に取り組んでいる」が95%と非常に高い水準だった。 ○「勉強と部活動の両立にしっかりと取り組んでいる」が77%と、部活動での仲間同士で切磋琢磨している様子が伺えた。	A A	学校行事への取り組みは、昨年同様非常に良いようである。このままの水準を維持していきたいと考える。勉強と部活動の両立は、意識している生徒が多いことが分かったが、まだ高い水準を目指す余地がある。
4	【現状】 保護者・地域に対し、ホームページによる情報発信は向上している。交通ルールの遵守が出来ていない生徒が一定数存在する。 【課題】 ・保護者向けメール登録率の改善 ・地域との交流が停滞している。 ・社会の一員としての自覚を更に向上させる必要がある。	○保護者のメールアドレスの登録状況の定期的な確認とフォロー。 ○地域と交流を進めながら、生徒に社会の一員であることを自覚させ、責任ある行動へとつなげる。	①ホームページによる情報発信 ②学校Instagramの使用 ③地元地域との交流事業への参加 ④日々の立哨指導の実施	①学校生活アンケートの「ホームページ等での情報提供ができている(保護者)」80%以上 ②メールへの保護者の登録が100% ③地元地域との交流事業の件数が4件以上 ④学校生活アンケートの「交通ルールが守れている」80%以上	○「ホームページ等での情報提供ができている(保護者)」が86、メールアドレスの登録率が76%であった。 ○地元地域との交流が5件と、以前の水準に戻ってきた。「交通ルールが守れている」が96%と高い水準であった。	A A	メールへの登録状況を更に増やす術を考える必要がある。地域との交流はコロナ禍前に戻ってきたので、このままの水準を維持したい。交通ルールを守れている生徒が殆どとの結果であったが、登下校時の自転車のマナーをごく少数の生徒は守れていないようなので、今後の課題としたい。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和8年1月30日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
学習に対する生徒の意識が高くない点について指摘があった。教員側から生徒への働きかけを工夫するなどして、学習に取り組む姿勢を醸成出来ると良い。留学の話なども交えると効果はあがるのではないかと。アンケート項目についての見直しするべきである。	
「進路情報の提供」に関して生徒と保護者の満足度に乖離がある理由を問われた。生徒は教員に近い所で日々指導を受けていることに対し、保護者は文章による情報のみに接していることにも起因している可能性がある。オープンキャンパス等で外部の情報を入手する際の注意点等、保護者にも提供してもらえると有難いとの意見もあった。	
進路情報と並んで、学校の様子が文字や画像のみで伝わっていることもあり、本校生徒の学校行事への参加状況が保護者に伝わっていないようである。HPだけでなく、メール等を使って「プッシュ型通知」等も検討する余地があると考えられる。	
学校からの配信メールサービスへの登録率を上げる手段として、東中学校では配信サービスに欠席連絡ツールが追加されているものを使っている。ロータリークラブが生徒の視野を広げられる取り組みをたくさん行っているのので、地域との交流としてロータリークラブへの積極的な働き掛けも期待している。保護者が生徒の登下校の様子を見ることが殆どないせいか、交通ルールについての指摘は無かった。	

